

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 28 年 9 月 29 日 (2016.9.29)

【公開番号】特開 2015-108101 (P2015-108101A)

【公開日】平成 27 年 6 月 11 日 (2015.6.11)

【年通号数】公開・登録公報 2015-038

【出願番号】特願 2013-252462 (P2013-252462)

【国際特許分類】

C 0 8 G 59/20 (2006.01)

G 0 2 B 5/30 (2006.01)

C 0 9 J 4/00 (2006.01)

C 0 9 J 163/00 (2006.01)

C 0 9 J 7/02 (2006.01)

G 0 2 F 1/1335 (2006.01)

B 3 2 B 27/00 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 G 59/20

G 0 2 B 5/30

C 0 9 J 4/00

C 0 9 J 163/00

C 0 9 J 7/02 Z

G 0 2 F 1/1335 5 1 0

B 3 2 B 27/00 D

【手続補正書】

【提出日】平成 28 年 8 月 10 日 (2016.8.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

分子内に、オキシラン環を有する化合物 (A) と、
分子内に 1 個以上のカルボキシル基を有する , - 不飽和二重結合基含有化合物 (B)
) と、
分子内にカルボキシル基を有しない , - 不飽和二重結合基含有化合物 (C) とを含有する活性エネルギー線重合性樹脂組成物。

【請求項 2】

化合物 (C) が、アミノ基を有する , - 不飽和二重結合基含有化合物 (c 1) を含有することを特徴とする請求項 1 記載の活性エネルギー線重合性樹脂組成物。

【請求項 3】

活性エネルギー線重合性組成物全量 100 重量 % 中、
化合物 (A) を 0.5 ~ 60 重量 %、
化合物 (B) を 0.5 ~ 20 重量 %、
化合物 (C) を 20 ~ 99 重量 %、
含有することを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の活性エネルギー線重合性樹脂組成物。

【請求項 4】

化合物 (A) が、オキシラン環にシクロアルカン環が直接結合した双環構造を有する化

合物（a 3）であることを特徴とする請求項 1～3 いずれか記載の活性エネルギー線重合性樹脂組成物。

【請求項 5】

化合物（A）が、芳香環を有する化合物（a 3 - 2）であることを特徴とする請求項 1～4 いずれか記載の活性エネルギー線重合性樹脂組成物。

【請求項 6】

化合物（B）の、 - 不飽和二重結合基が、アクリロイル基及び／またはメタクリロイル基であることを特徴とする請求項 1～5 いずれか記載の活性エネルギー線重合性樹脂組成物。

【請求項 7】

化合物（c 1）に含有されるアミノ基が、3 級アミノ基であることを特徴とする請求項 1～6 いずれか記載の活性エネルギー線重合性樹脂組成物。

【請求項 8】

基材（G）と、該基材（G）の少なくとも一方の主面に設けられた請求項 1～7 いずれか記載の樹脂組成物からなる樹脂層とを有する積層体。

【請求項 9】

基材（G）が、透明フィルム（H）である請求項 8 記載の積層体。

【請求項 10】

透明フィルム（H）が、ポリアセチルセルロース系フィルム、ポリノルボルネン系フィルム、ポリプロピレン系フィルム、ポリアクリル系フィルム、ポリカーボネート系フィルム、ポリエステル系フィルム、ポリビニルアルコール系フィルム、及びポリイミド系フィルムからなる群から選択される少なくとも 1 種である請求項 9 に記載の積層体。

【請求項 11】

光学フィルムと、該光学フィルムの少なくとも一方の主面に設けられた請求項 1～7 いずれか記載の活性エネルギー線重合性樹脂組成物からなる樹脂層とを有する光学素子用積層体。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 5 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 2 5 8】

《収縮率》

上記偏光板小片を 8 0 - d r y と 6 0 - 9 0 R H % の恒温恒湿機中に放置し、6 0 時間後の延伸方向の縮み量を測定し、元の長さ（1 0 0 m m）に対する縮み量の割合を収縮率とし求め、以下の 3 段階で評価をした。

なお、「d r y」とは、湿度調整機能付のオープンで、温度のみコントロールし、湿度のコントロールを行わなかった場合の試験条件である。「」評価以上の場合、実際の使用時に特に問題ない。

（評価基準）

：収縮率が 0 . 2 % 以下

：収縮率が 0 . 2 % より大きくて 0 . 4 % 以下

×：収縮率が 0 . 4 % を超える。